

がんばっています!



迫田 祥寛さん

J A やつしろ
東北果樹部会梨部部長



八代郡氷川町で、梨の栽培をされている迫田祥寛さん(52歳)を取材しました。迫田さんのご家族は、奥様と長男、お母様、弟さんの5人家族です。

出荷者：辺原 秀雄さん

直売所：J A たまな農産物直

売所「一きりめき」

紹介J A : J A たまな



玉名郡和水町の三加和地区で「J A 茅の輪の会」の代表をされている辺原秀雄さんと、会員の宮野仁美さん、竹下フクエさん、池田

●就農について

県内の高校卒業後、熊本県職員を目指し、茨城県にある農林水産省(現在、農研機構)果樹試験場本場に研修生として入場。しかし、4カ月後にお父様が急逝、家業を継ぐことになり就農されました。

現在は、迫田さんとお母様、弟さんの3人で、秋麗、あきづき、新高、幸水、豊水などの梨を180アール栽培されています。梨は7月中旬から10月いっぱいの出荷となります。

●農業をやっている良かったこと

「消費者の皆さんに『こんな美味しい梨は、初めて食べた!!』と言ってもらえることです。」



▲ジャンボ梨の新高

●将来への思い

「近年、当産地は気象災害により、まともな生産ができていません。そこで、晩霜

きていません。そこで、晩霜台風、焼け果による被害を回避できる品種への更新を進め、20年後、30年後も生産者皆が安定生産できればと思います。」

●好きな言葉

「好きな言葉は、『石の上にも三年という。しかし、三年を一年で習得する努力を怠ってはならない。』松下幸之助さんの言葉です。頑固で近寄りたくない祖父のことが大好きで、その祖父が好きな言葉でもありません。特別なことではなく、普通

の、当たり前のことではしなくてはいけないと、祖父は生前言っていました。」

●最後に一言

「夢を持つことはいいいことですが、夢を絵にするだけでなく、数字や行動に移すビジョンを持ってもらいたい。夢を現実にするという気持ちをもちましょう。」

熊本県産ブランド秋麗は少しづつ消費者に定着してきており、新品種の甘太も熊本県産ブランド定着を目指したいと、抱負を語る迫田さんでした。

●今後の抱負

「若い後継者を育て、会員を増やしたいですね。高齢化が進み、直売所への出荷者に若い方がいません。直売所への出荷はもちろん、この会にも若い方々に参加いただき、地域の活性化へと繋げて行きたいです。」

正式な茅の輪のくぐり方は、8の時を書くように、左・右・左へ廻ることです。機会があれば、大きな茅の輪をくぐり、三茅の輪をいただきにつかがたいです。

●「J A 茅の輪の会」とは

直売所へ農産物を出荷している生産者有志の集まりです。今年是有志13人で、直径約2ミリの大きな茅の輪2個、三茅の輪1400個を作りしました。宮司にお



▲左から竹下さん、宮野さん、池田さん、福山さん

千鶴子さん、福山サツキさんにお話を伺いました。

被っていた後、大きな茅の輪は直売所2店舗に飾り、三茅の輪は、直売所の来店者へ配布されます。

茅の輪をくぐると、正月から半年間の穢れが払え、残りの半年間を無病息災で過ごせるという由来があります。

一般的に茅の輪は「無病息災」「交通安全」が祈願されますが、「J A 茅の輪の会」で作る茅の輪は、「農作業安全」「豊作祈願」も祈願されます。

●直売所について

代表の辺原さんは、主に柿を出荷されています。また、その他の会員の方々も、野菜や果物、粟などその季節に取れるもの、米せんべいやコンニャクなどの加工品を出荷されています。直売所へ出荷しているときや、出荷協議会で会うと情報交換したり、おしゃべりしたりと、話に花が咲くそうです。



▲茅の輪くぐり